

ダムの洪水調節、ただし書き操作とは？

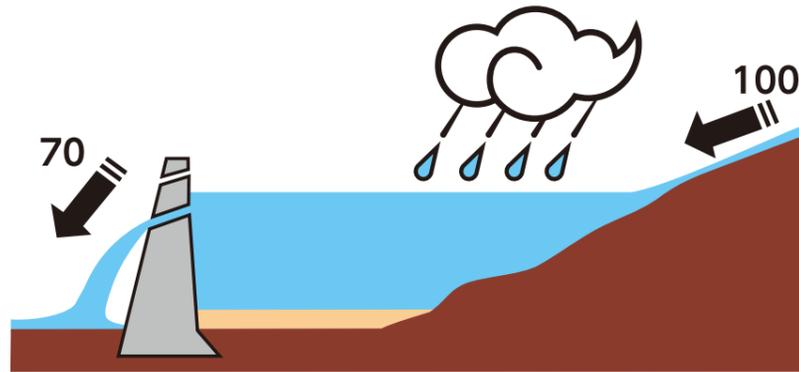
ダムによる洪水調節

○ダムでは、大雨によりダム（貯水池）へ流入する洪水の量が増えると、その一部を貯めて洪水の量を減らし放流（洪水調節）することにより、下流の洪水被害の軽減を図ります。

ダムが満水に近づいたら

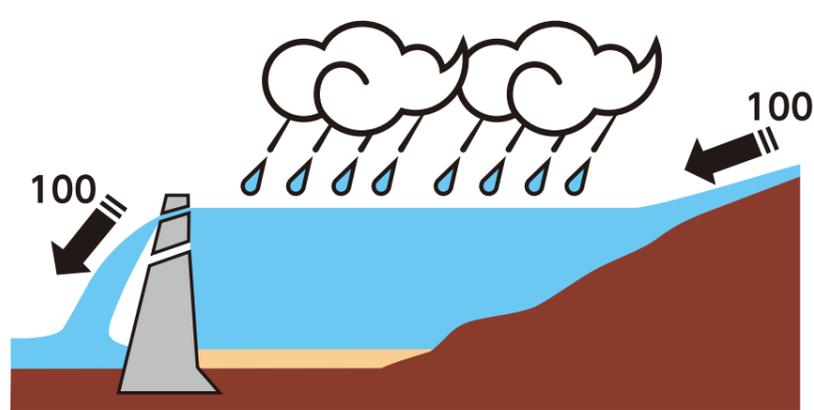
- ダムでは、洪水の一部を貯水池に貯めることに伴い、貯水池の水位が上昇していきます。
 - 貯める量が貯水池の容量を超えるような大規模な洪水が発生し、貯水池が満水に近づいたときは、これ以上ダムで貯めることができなくなります。
 - このため、ダムへ流入する洪水の量と同じ量を放流せざるを得なくなります。（このときのダム操作を「**ただし書き操作**」または「**異常洪水時防災操作**」といいます。）
- ※この場合でも流入量以上の放流を行うことはありません。

洪水調節のイメージ（洪水期の例）



ダムで洪水の一部を貯め、下流の流量を低減させます。

ただし書き操作のイメージ（異常洪水時）



ダムが満水に近づくとあふれないように貯水位を維持します。

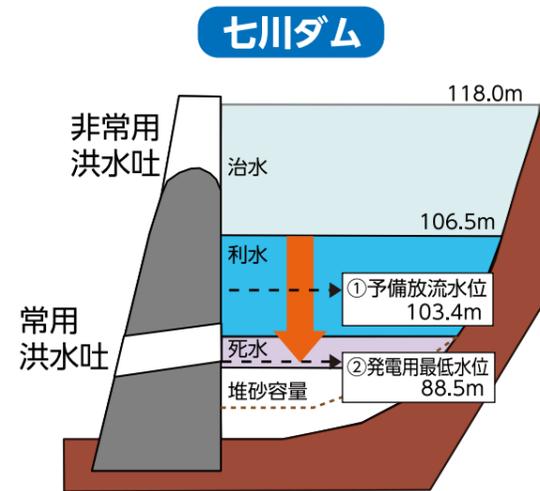
流入量と同量の放流となりますが、100を超えることはありません。

ダムに入る洪水
||
ダムから流す量

七川ダムからのお知らせ

（七川ダムの運用が変わります）

平成23年の台風12号の記録的な大雨により、県営の七川ダムでは貯水位が満水付近に達し、ただし書き操作（流入量とほぼ同量の放流）を実施せざるを得ませんでした。今後、長期の降雨予測を用いることにより台風12号のような異常洪水が予測されるときには、より早期に放流を開始し、可能な限り水位を低下させ、下流の洪水被害軽減を図ります。



（容量配分図（洪水期））
 ※概念図であり、縮尺や縦横比等は異なる。
 ※茶色の点線は、現状の堆砂面。
 ※水位は、標高表示。

事前放流に伴うお願い

- 雨が降っていないときに放流を開始することがあります。
- 警報局のサイレンや警報車からの放送があったときは川に近づかないでください。
- 今後、ダムが満水になるほどの大雨となる可能性があります。気象情報や市町、ダムからの情報に注意してください。

注意事項

※新運用により期待できる治水効果には限界があります。避難行動等をあわせた防災対策をお願いします。

※異常洪水の予測が雨の降り出し後、下流河川の水位が高くなった場合等は、事前放流ができない場合があります。

※事前の水位低下によりゲートから少量しか放流できなくなるため、ダムへの流入量の増加にともない水位が上昇していくこともあります。

※ダム満水時も流入量以上の放流を行うことはありません。

- 現行**：夏場は①まで水位を下げ洪水に備えています。ダムが満水になるような大雨が予想されるときは、**あらかじめ②の水位を目標に低下**させます。
- 新運用**：長期の予測を用いることにより、**早期に放流の判断**をし**②の水位を目標に低下**させます。

期待される治水効果

- (1) 水位低下により、放流量を流入量より少なく調節できる時間を延ばす。
- (2) 水位低下により、最大放流量を低減し、下流の洪水被害を低減させる。

